

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	高知県立大学	整理番号	M02
プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	野嶋 佐由美	プログラム コーディネーター	山田 覚
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の理念、カリキュラム及び指導体制整備など、中間評価時の留意事項への対応が着実になされている。 ・学生のキャリアパスの明確化の取組が整備され、学生もキャリアについての不安を払拭しつつある。 ・5 大学が連携し、災害看護のシミュレーションを英語で実践したり、国内外でのセミナーで英語によるプレゼンテーションを行ったりするなど、グローバルリーダーの養成に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。 ・5 大学連携は学生達に「つながり」という心強さをもたらしており、本プログラムの創発効果として大いに意義があり、今後の更なる展開が期待される。 ・大学院共同災害看護学専攻の履修要件として、5 大学から各 10 単位を取得する必要があり、これは原籍以外の大学から学ぶ機会を学生に与える一方で、学生にとっても授業を提供する教員にとっても大きな負担となっていると思料される。そのため、制度的な制約はあるが、何らかの工夫が必要と考えられる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 大学連携のプログラムはほぼ軌道に乗ったと判断される。本プログラムの主旨である災害看護のグローバルリーダー養成に向けて、この連携を推進・強化するとともに、災害看護の世界拠点づくりの推進に、より一層の努力がなされることを期待する。 ・学位審査に関して、投稿論文主義は採用しないとのことであるが、英語による査読付き論文はグローバルリーダーの基本要件であるので、成果を国内外の学協会の英文公式ジャーナルに積極的に投稿することを心がけるべきである。 ・補助金削減の影響から、平成 28 年度に学生の奨励金が 20 万円から 15 万円に減額されたため、学生の中には減額分をアルバイトで補てんすることを余儀なくされている者がいるが、週 5 時間以内という規定はかなり厳しい状況である。制度の制約はあるが、減額分を補てんする支援策について検討する必要がある。 ・留学生の確保、及び国際的な業績のある教授の指導に努力の跡が見られるが、今後、より充実させることが求められる。特に国際的業績のある教授の短期・長期の招へいに努めるべきである。 ・国内機関のインターンシップに比して国際機関が少なく、かつ特定の大学に偏向している傾向にある。諸般の事情はあるものの、中・長期のインターンシップでは、国際機関（JICA や WHO など）への派遣を積極的に推進する必要がある。 ・匿名性を確保した学生による授業評価や自己評価など、プログラムを客観的に評価できる仕組みを構築し、その成果を今後のプログラムにフィードバックできるようにされたい。 ・災害看護学の専門科目の整備は進んでいるが、グローバル・マインドを涵養するために後期の教養科目（人文学・社会科学）を充実させる必要がある。 			